

栗野・徒然日記

参帖の参・夏

令和二年十一月から綴り始めた「栗野・徒然日記」を、**春(三〜五月)**、**夏(六〜八月)**、**秋(九〜十一月)**、**冬(十二〜二月)**の季節ごとに再編集しました。
栗野の四季折々と日常をつれづれなるままに。

それでは一筆!!

2022.6.2 麦秋至(むぎのときいたる)



田植えの前後、小麦は収穫期を迎え、金色に輝きを見せています。

小麦の自給率は12%ですが、需給バランスは微妙で、これまでは必ずしも供給不足とは言えないらしい。ロシアのウクライナ侵攻と海上封鎖によって、主要生産地であるウクライナの小麦の輸出ができないことによる飢餓に直面する国が生じている。円安による国内のインフレも進みつつある。エネルギー資源の確保とともに、食料自給率の向上の必要性は、歴史が教えているにもかかわらず、低下の一途をたどっている。

改めて東欧の悲劇は、我が国に数多くの教訓を与えている。

2023.6.22 乃東枯(なつかれくさかるる)の季節



アジサイの花が雨に映えて、梅雨を実感させてくれますね。

季節は、乃東枯の候を迎えました。「乃東」とは「夏枯草」のことで「ウツボグサ」のこと。最近はこの辺りでは見かけない花になってしまいましたが、私の好みの花。紫の花を咲かせた背の低い草は、他の草花が繁茂するこの時期には、枯れていきます。そんな姿が珍しく72候を示す草として選ばれたのでしょうか。もっとも、ヒガンバナやスイセンなども、葉は枯れ始め、休眠してしまいます。

夏場は草刈の季節ですが、葉がないので影響を受けません。地域のまちづくりでは、「花を楽しみながら鳥羽川堤を散歩できたらいいね」とよく話題になります。ワレモコウ、アザミなどの郷愁を誘う草花のほか、今では絶滅危惧種になってしまったフジバカマ、チョウジソウなどがベストなのですが、草と一緒に刈り取られてしまいます。その点、ウツボグサは、ヒガンバナ同様、候補に挙げてても良いのかも知れませんね。

それでは、鳥羽川堤にはどんな草花が生えているのでしょうか。そこからスタートしないとね……。

まちづくり協議会では、鳥羽川の植生調査を今年度から進めています。とは言え、やはり外来種が幅を利かせていそうです。

2023.7.1 ホームページのリニューアル



気付いてみれば、早いもので、7月に入りました。季節は、半夏生(はんげしょうず)。ハンゲショウ(サトイモ科)とは、カラスビシャクの別名で、この辺りではもう少し早く咲くようです。一方、トップ写真は、その名もまさにハンゲショウ(ドクダミ科)。葉の半分近くが白くなることから、半化粧とも書きます。花の季節はまさに今頃で、アジサイとの競演が見られます。

最近、日記が「月記」になってしまいました。ご心配のお便りをいただきましたが、恐縮です。

まちづくり協議会のホームページも開設して2年半。リニューアルの必要性がありましたが、なかなか着手する余裕と能力が…。開設当初からの課題でしたが、企画・制作、取材などのスタッフ体制の強化も欠かせません。

ホームページの制作運営に参加いただける方を募集しています。制作講座を受講する機会もあり、経験のない方も大歓迎です。ぜひ、力をお貸しください。

2023.7.18 鳥羽川堤の植生



鳥羽川の堤防に、ヤブカンゾウが群れをなして咲いています。と言っても、栗野地区の堤にはこの一画のみ。結構強じんな性質なのにちょっと不思議。

「萱草(カンゾウ)」は、葉が萱(カヤ)に似ているからとか。万葉集や源氏物語には“忘れ草”として登場します。

「花の美しさが憂いを忘れさせてくれるから」とか、「花のつぼみや新芽を食べると、心配事も吹き飛ばすほどに美味しいから」など諸説紛々？ また、「ヤブ」は、野よりも人家に近いことを意味しているとか。

ちなみに、ヤブカラシの名は、藪を枯らす草と言う意味だけれど、人家にも生えてビンボウカズラと言われるのは、以前の日記にも綴った記憶があります。

堤防には、外来種がどんどん進出しています。10年後はどんな植生になっているのか、その変遷を記録する意味からも、今年度末までに、まちづくり協議会では、「鳥羽川(栗野地区)の植生報告書」をまとめる予定。珍しい草花を見かけたら外来種というのがここ最近の傾向。情報をお寄せいただければ幸いです。それぞれ日記で撮りだめた草花の写真も役立っています。

堤防を散策径の在り方の一つとして、万葉集にも歌われた植物などを楽しめる堤防を目指すのも悪くはないかも。



◀ 荒れ地のヤブカンゾウに巻き付くヤブガラシ。在来種同志、とりあえず共存しています。

2023.8.2 大雨時行（たいうときどきふる）の候



夕立の日が多くなりましたね。季節は「大雨時行」の候。暑さを少し和らげてくれる雨は、まさに喜雨と言えるでしょう。南海上では、大型の台風が発生しています。これから本州への接近も増えてきます。気候変動のせいでしょうか、大型台風の発生頻度が高まっている気がします。

先日、国連事務総長が、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化時代が到来した」と訴えました。今更ながら、環境との共存が人類に突き付けられた待ったなしのテーマの一つです。

気候変動真ただ中・・・とは言え、わずかな季節の変化が暦のとおり、暮らしの中に感じられる今日この頃です。



◀ 日盛りに湧き上がる雲の峰。間もなく夕立が訪れそうです。

2023.8.20 まつり雑感



「子どもたち」と「地域」を育む栗野の夏まつりが4年ぶりに開催されました。天候にも恵まれ、これまでにない人出でにぎわいました。子どもたちを地域で見守り、育てる機会として、そして三世代交流を通して地域の絆を育む…希薄化するコミュニティの中で、「まつり」が果たす意義は、より重要なものとなってきています。地域の歴史文化を継承し、ふるさとに愛着を醸成する、そして感謝や願いを込めた「祭り」として、みんなの知恵と汗で次世代につなげていきたいですね。

18日には、大龍寺の灯籠まつりも終わりいよいよ秋の気配。山の木の実も、ウルシの仲間、ノブドウ、フジなどなど、まだまだ青いけれど、実が目立ち始めました。アカメガシワはもう熟しているようです。



▲アカメガシワの実はまだ熟していません。5mほどの範囲に、これらの草木やフジなどが実を付けていました。



▲ノブドウも色づくにはまだまだ時間がかかりそう。

これ以降の日記は、現在編集中です。